

# テーマ1 地域資源を活かした活動の展開「鎧かぶとにハマっています」 (赤松地区むらづくり推進委員会 (上郡町赤松地区))

## (1) 事例報告

別紙「テーマ1」により、赤松地区むらづくり推進委員会が事例報告を行った。

## (2) グループセッション (グループ①：8名)



## (発表)

- ・元気に楽しくやろう!!から活動をスタートした
- ・次の世代へのつながりを考え、地元の高校生と一緒に活動している
- ・住民手づくりの鎧かぶとを、ふるさと納税返礼品として提供し、資金源としている
- ・地域の人達が一体化して元気になっている





テーマ2 地域間交流による賑わいづくり「わがまちのファンを増やしたい」  
(与布土地域自治協議会 (朝来市与布土地区))

(1) 事例報告

別紙「テーマ2」により、与布土地域自治協議会が事例報告を行った。

(2) グループセッション (グループ① : 8名)

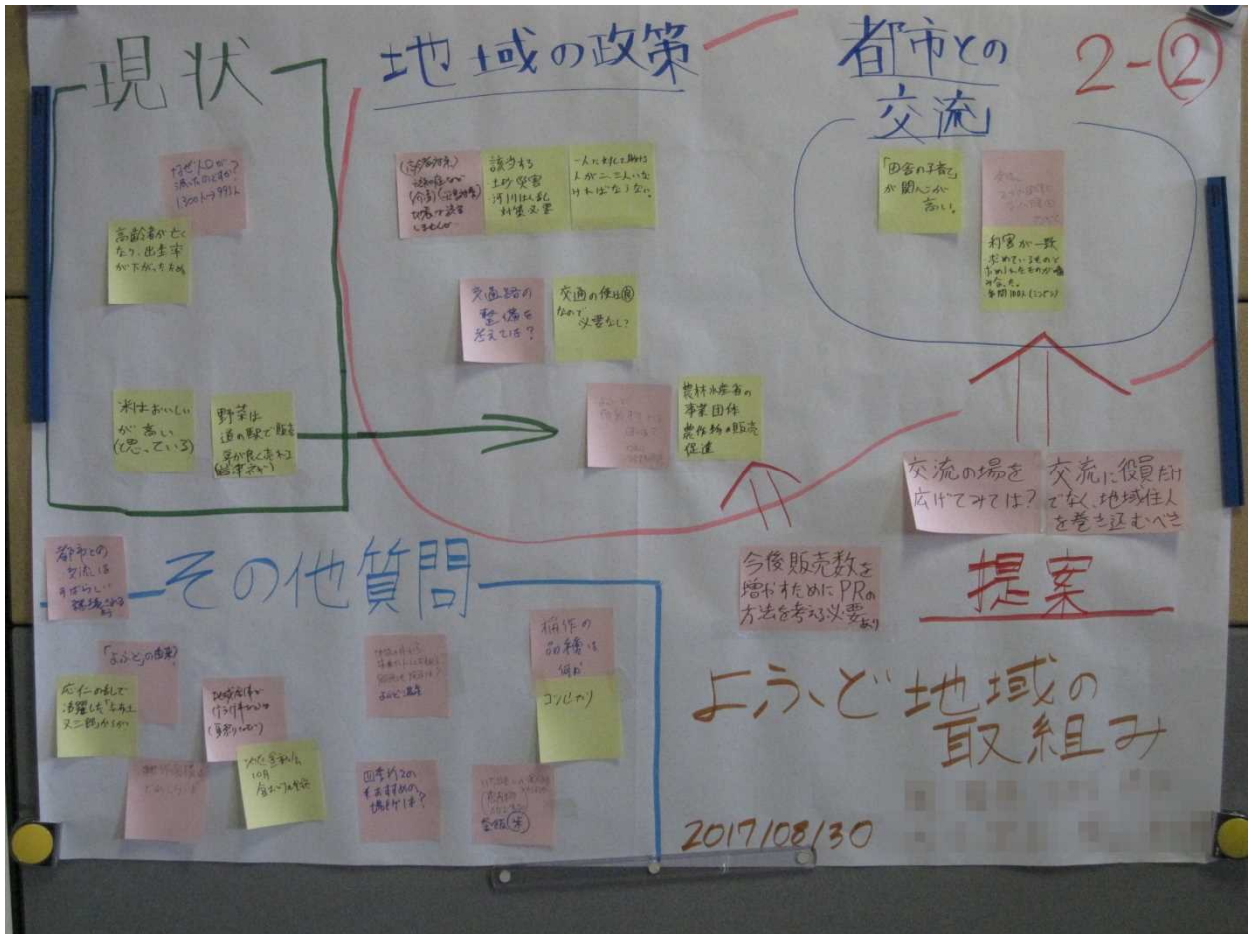


(発表)

- ・ 少子高齢化に危機感を感じ、住民主導で地域自治組織を作って、色々な取組みを実施
- ・ 都市部と地域間交流をしているが、具体的な成果は見えにくい
- ・ 都市部にはない魅力、田舎の価値がある
- ・ 地域間交流を続けることで分かってくることもあるので、続けていってほしいし、見習っていききたい



(3) グループセッション (グループ②) : 8名)



(発表)

- ・都市部と地域間交流の成果が見えにくい
- ・取組みもマンネリ化している  
→交流の場を広げるなど少しやり方を工夫してみたらどうか
- ・役員の固定化  
→家族にお礼を言うことで、家族にも認められ、地域活動への参加の意欲も湧くのでは
- ・田舎での子育ては魅力的であり、関心も高い
- ・リピーターを増やす取組のための、PRもっとしたらよいのでは



**【事例報告地区の概要】**

**与布土地域自治協議会 (朝来市与布土地区)**

- ・古くから農業が盛んな地域。若い世代は卒業とともに地域を離れ、人口減少、高齢化など課題を抱える
- ・都市部の地域や企業と、田植えや稲刈りなどの農業体験、地区運動会や祭りなどを通じて交流。来てくれた子ども達の笑顔が何よりの励みである
- ・一見、順風満帆な交流活動のようであるが、時に、団体間の思いの違いを感じることもあり、試行錯誤しつつ取り組んでいる



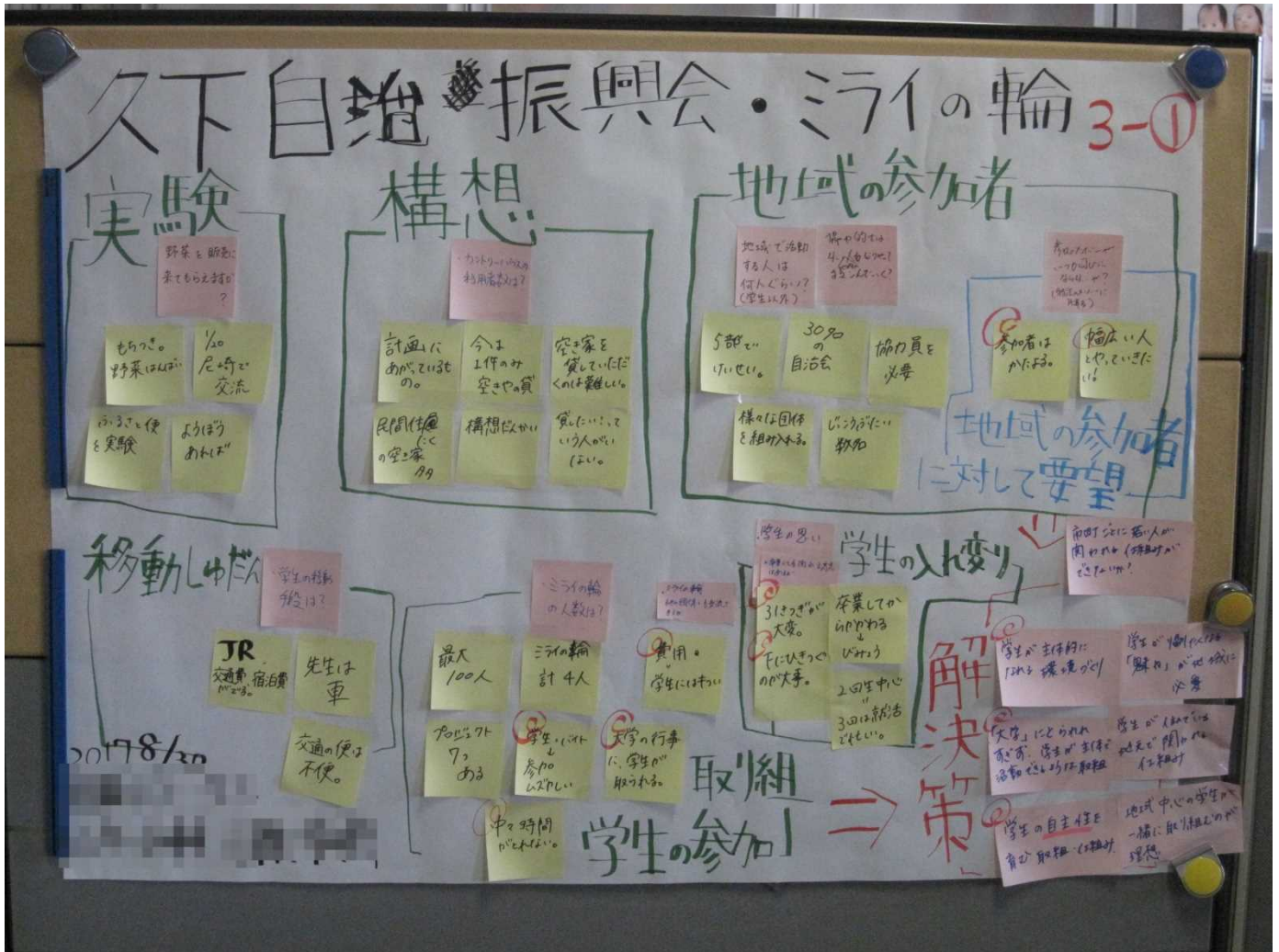
交流事業 (農業体験)

テーマ3 大学生と取り組む地域の活性化「若者と一緒にチャレンジ」  
 (久下自治振興会 (丹波市久下地区)、ミライの輪 (神戸親和女子大学))

(1) 事例報告

別紙「テーマ3」により、久下自治振興会・ミライの輪が事例報告を行った。

(2) グループセッション (グループ① : 7名)

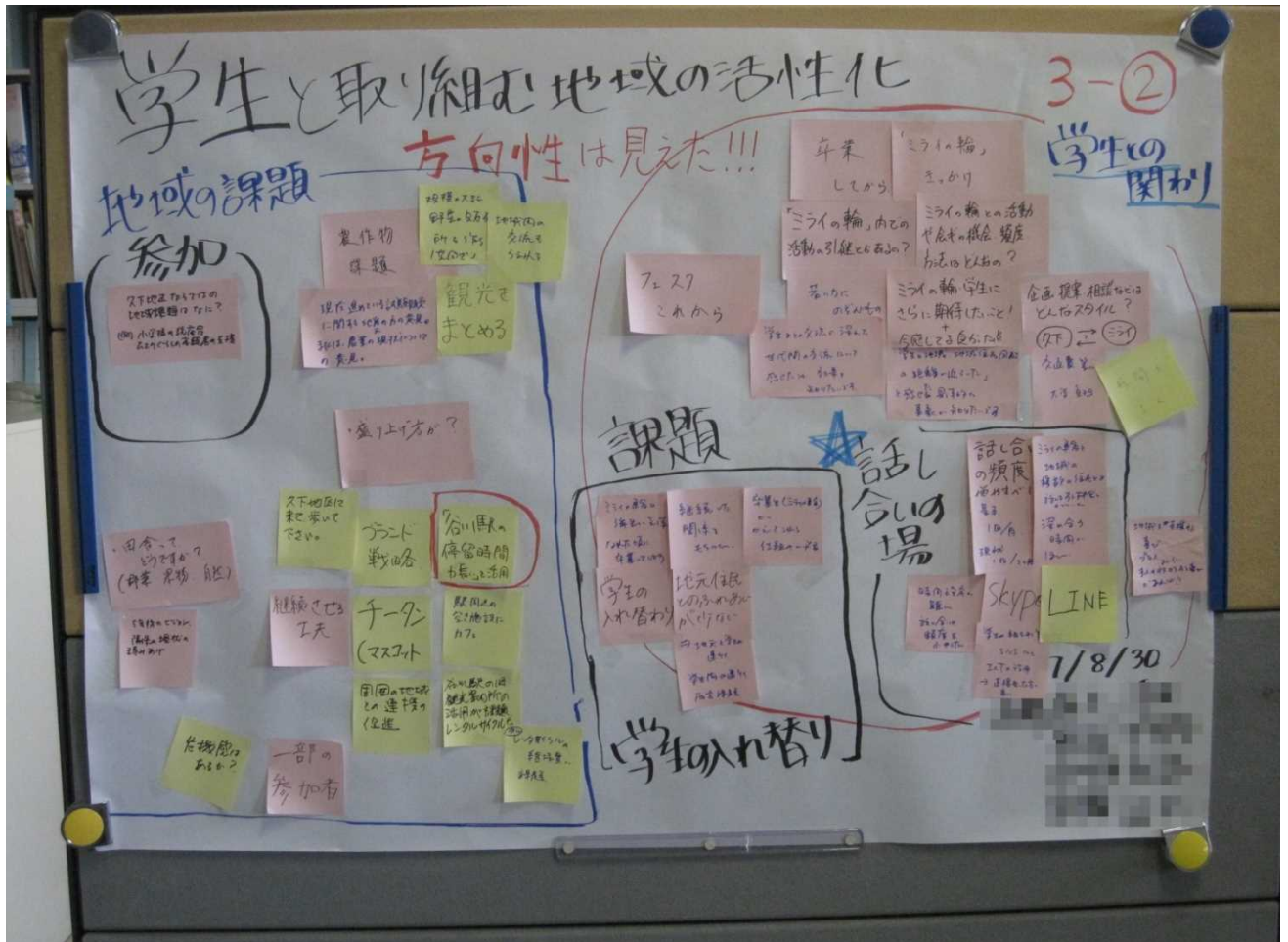


(発表)

- ・大学生が地域に入って活動しているが3年生が中心で継続性に問題
- ・地域住民が分野によって人が違うので、毎年新しいことをしているのが実態
- ・地域出身の若者を捕まえる (中学生の頃から巻込む) のが大事ではないか。地域への思いも強く、地域の人とも馴染みやすい



(3) グループセッション (グループ②) : 8名



(発表)

- ・ 駅でのマルシェ開催や、レンタサイクル事業等で、地域をみてもらう機会を増やしてはどうか
- ・ 学生に関わってもらい仕組みが必要
- ・ 学生も学業や私生活が忙しいので、話し合う機会が少なく、Skype など活用しているが、やっぱり、会って話すのが一番
- ・ 今、関わっている学生を卒業後もどうつなぐか地域振興としての課題ではないか



【事例報告地区の概要】

久下自治振興会 (丹波市久下地区)、ミライの輪 (神戸親和女子大学)

- ・ 地域団体が、県内の女子大学生で構成された「ミライの輪」と連携して地域活性化に取り組む
- ・ 学生には、①特産物の小豆の種蒔き等の農作業 ②収穫した小豆を使った餅つき大会、③小学生と一緒に地域をネタにしたカルタづくり等々、様々な活動に取り組んでもらっている
- ・ 学生が企画した「久下フェスタ」は、踊りや演奏、写真撮影会などで大いに賑わい、皆が楽しんだ



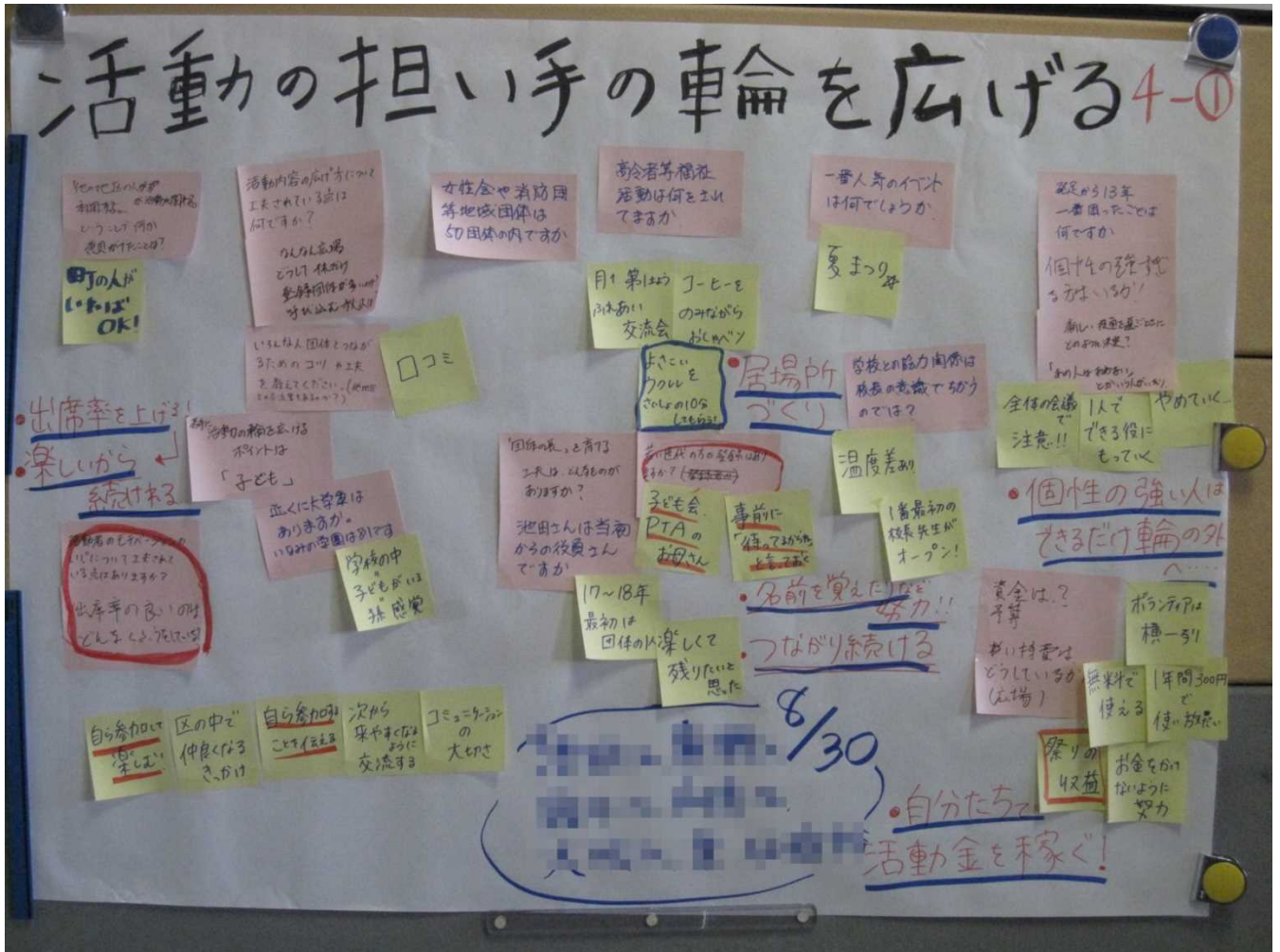
久下フェスタ

## テーマ4 活動の担い手の輪を広げる「人材見つけて、臆さずスカウト」 (なんなんまちづくりの会 (稲美町天満南地区))

### (1) 事例報告

別紙 テーマ4 により、なんなんまちづくりの会が事例報告を行った。

### (2) グループセッション (グループ①) : 8名

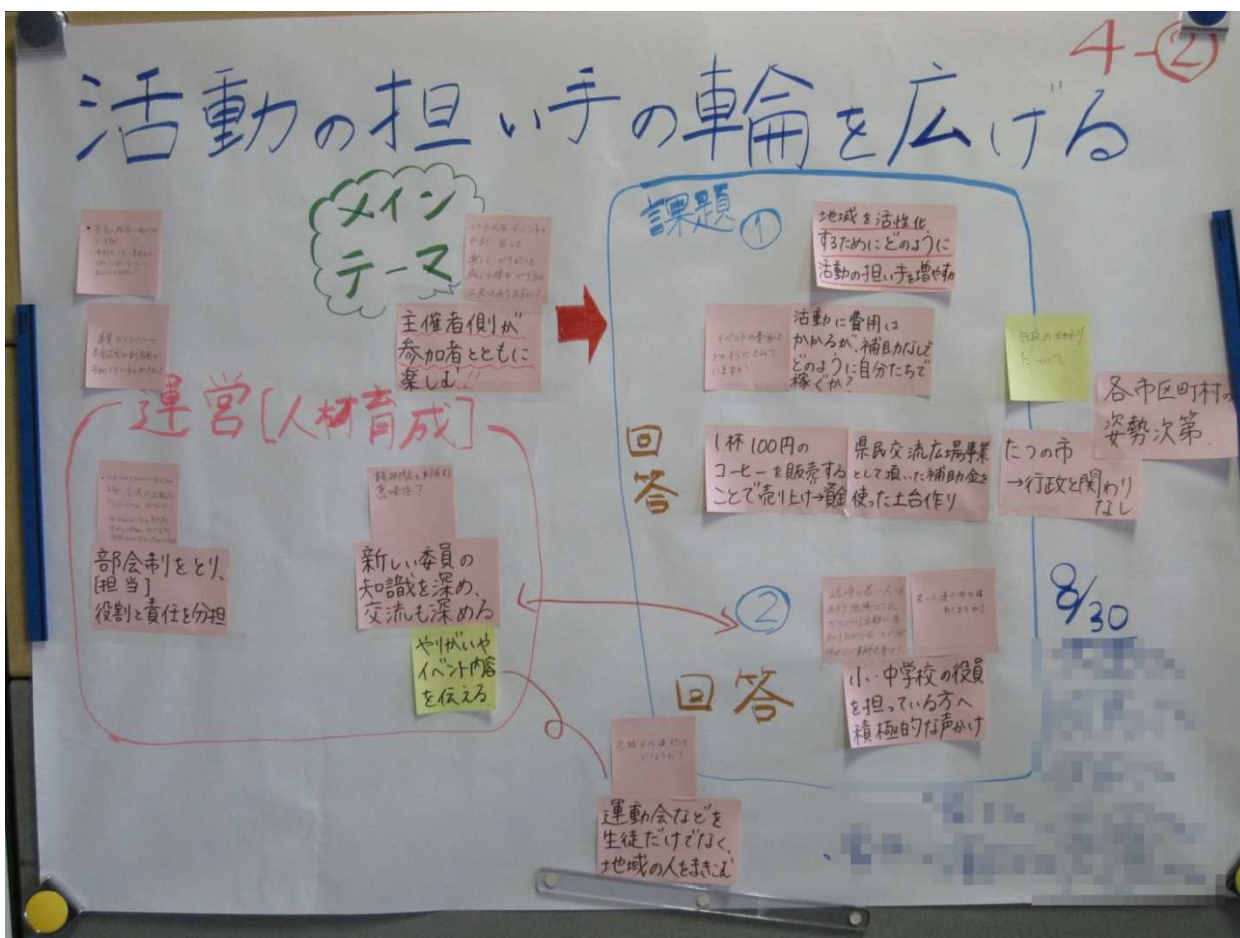


### (発表)

- ・当初、中心メンバーは各種団体の充て職だったが、活動が盛況になると事業も増え担い手が不足
- ・役員の出席簿を作り、皆勤賞は表彰することで参加意欲の向上につなげている
- ・任期を終えた人にも資料配付などお願いし、いつでも待っているよ、という雰囲気大事
- ・貸室の利用団体にも声をかけ、イベントへの協力をお願いし、輪が広がっている
- ・個性強い人は、輪に入れないのではなく、役割を与え居場所をつくっている



(3) グループセッション (グループ②) : 8名



(発表)

- ・主催者側も、参加者とともに楽しむのがいい
- ・補助金は土台作りに活用し、1杯100円のコーヒーでも、ちりも積もれば山となる、
- ・組織委は部会制にし、役割と責任を明確にしている
- ・研修会により、新しいメンバーにイベントの知識を深めてもらうだけでなく、メンバー間で交流を図ってもらっている



【事例報告地区の概要】

なんなんまちづくりの会 (稲美町天満南地区)

- ・県補助金と町の協力を得て、現役小学校の余裕教室を、「フリースペース (貸室)」や「ふれあい喫茶」に改修。地域の人がいつでも気軽に集える空間を提供している
- ・利用率は高く活気もあるが、運営面では活動の担い手確保や後継者の育成といった点で不安もある
- ・貸室利用団体や任期満了後の役員にも継続しての活動参加を呼びかけ、担い手の輪を広げようと頑張っている



余裕教室の活用 (ふれあい教室)



テーマ5 地域内の他団体との連携・協働「お仲間を増やしてパワーアップ」  
 (園田北まちづくり協議会 (尼崎市園田北地区))

(1) 事例報告

別紙「テーマ5」により、園田北まちづくり協議会が事例報告を行った。

(2) グループセッション (グループ①) : 8名

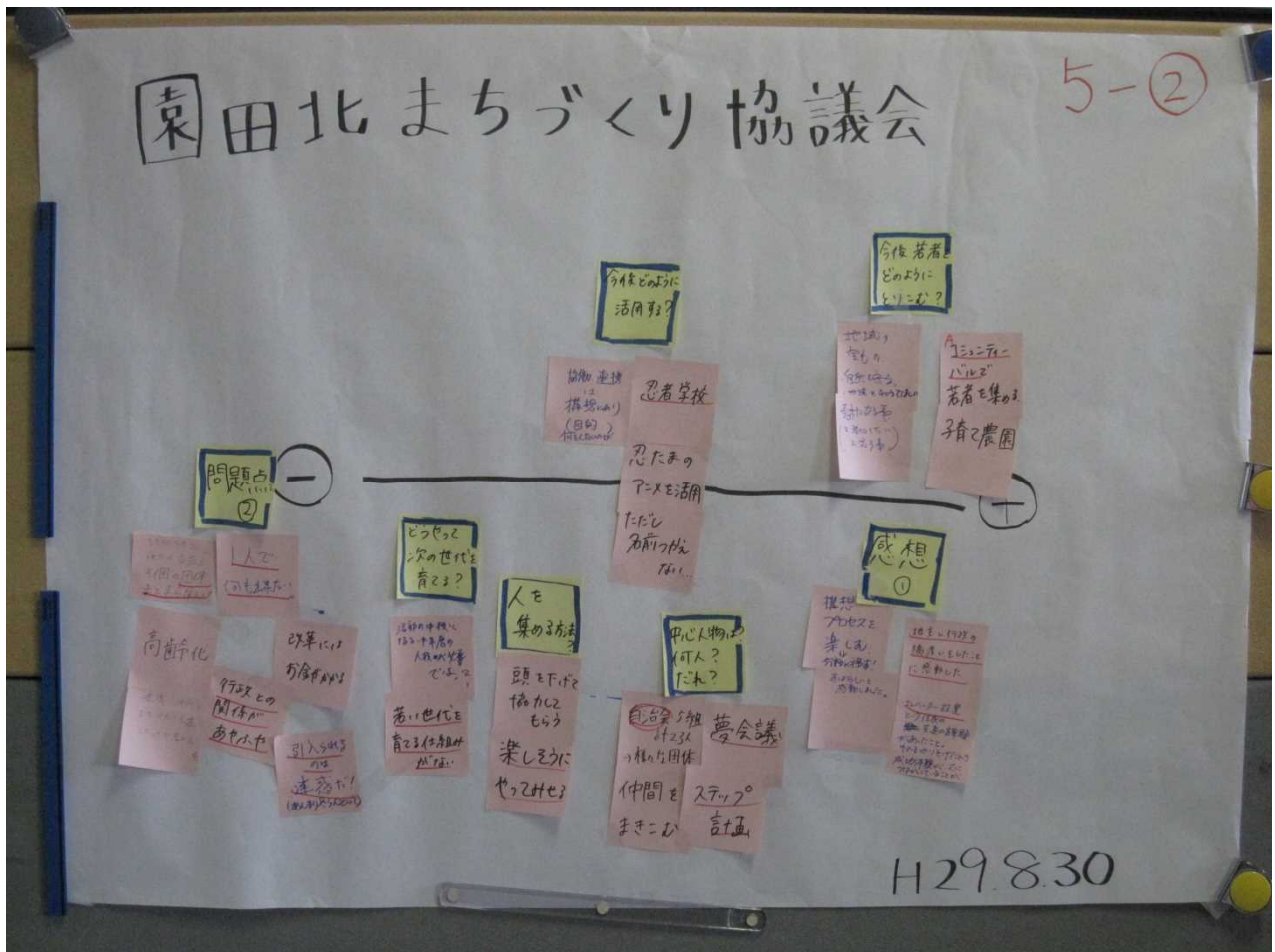


(発表)

- ・ 1,000人規模のアンケート取りながら、必要とされる事業に取り組んでいる
- ・ イベント等の活動や参加を通して、顔見知りを増やすことが、若者を取り込むことにつながるのではないかと
- ・ みんなが共感する課題を見つけることも大切
- ・ 10年などの長いスパンで考えるより、3年くらいだと具体的なプロセスが作れる



(3) グループセッション (グループ②) : 7名



(発表)

- ・若者をまき込む方法として、地域の飲食店で安いお金でお酒を飲める「コミュニティバル」を開き、大学生を沢山呼び、色々な意見を出してもらおう
- ・行政中心ではなく、自治会が中心になり「夢会議」を計画し、開催
- ・楽しそうにやって見せることで、人が集まってくるのではないだろうか



【事例報告地区の概要】

園田北まちづくり協議会 (尼崎市園田北地区)

- ・駅エレベータ設置や万葉の森の再生、人気アニメの聖地で子どもたちが修行を行う忍者学校の開設など住民の力で多くの成果をあげてきた
- ・少子高齢化や防災、環境など多様な課題解決には地域団体が連携してのまちづくりが重要になるとの思いから、今年6月、地域の主団体がそろって参画する園田北まちづくり協議会を設立
- ・誰もが安心して幸せに暮らせる地域づくりを目指す



猪名寺忍者学校

## コメント・意見交換等

### 1. コメント

(総合ファシリテーター辻氏、全県連絡協議会柏木アドバイザー)

- ・キーワードは「楽しさ」、「若者の参加」
- ・主催者側が楽しめなかったら、次にヤル気がしない
- ・去年楽しかったから、今年もやろう、もっと違うことをしよう、となる
- ・私自身も、面白いから活動している
- ・しんどいだけなら何でやるんですか、という話ではないか
- ・今日は若者が多いが、他の参加者も高齢の方ばかりでは無い
- ・10年前に比べると、に若い人が参加できる状況が生まれてきている
- ・色々な工夫で、若い人が参加しやすく楽しめるような工夫がされている
- ・今後、そのようなことを展開していただければいいと思う



### 2. 意見交換

#### (1) 若者の参加について

##### ■ 役場の若者の状況 (赤松地区むらづくり推進委員会)

- ・役場の町の観光を担当する職員が、各種イベントの時に積極的に参加してくれ、鎧かぶとを着たり、町のPR動画を自主制作したりしている  
→ (辻氏)

役場は、地域の住民が多い、その若い職員が自分の地域で、地域のことを仕事の形で取り組んでいく、大変分かり易い

##### ■ 都市部の若者の状況 (園田北まちづくり協議会)

- ・私自身も、最初は青年とか子育てに興味も関心もなかった
- ・見方を変えたら、若い人が結構地域にいる
- ・若者が子どもを育てるのにどんな魅力のある地域をつくりたいのか、そのような活動を行えば、40歳以下の若者による「ふるさとづくり青

年隊」という県の青少年本部の事業で100万円もらえるよ、ということ  
とで人集めをした。

- ・ 役員の子どもや孫、そして子ども会など結構若者に声をかけて、まち協が飲食代の大半を負担し、飲み会に開いたら集まった。
- ・ 来年は本格的に若者に地域づくりをしてもらおうと思っている  
→ (辻氏)

県の助成金を上手く使ったり、まち協も補助を出したりして、  
とりあえず来てもらう、きっかけづくりが大事

### ■大学生との連携（ミライの輪）

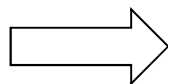
- ・ 3年間、大学の枠を越えてやろう、ということではしてきたが、実際はなかなか難しい
- ・ やっぱり、地元の若者を巻き込むのが大事
- ・ 少しでもいいので関われる仕組みをつくることが重要

### ■地域の若者情報（富合地区ふるさと創造会議「ももこの11」）

- ・ 市から「ふるさと創造会議」を小学校区に1つずつ作るよう依頼があり、ぼちぼちと出来つつある
- ・ 高校は地域にあり連携しているが、大学はない
- ・ 地元で大学生がいるという情報が欲しい

### (2) 学生が地域活動に関わることになったきっかけ

- ・ 楽しそう！面白そう
- ・ まちづくり、まち歩きに関心
- ・ アットホームで楽しい
- ・ 貢献できた達成感
- ・ ステップアップになる
- ・ 仲間ができる、人とのつながり
- ・ なぜボランティアしているのか興味があった
- ・ 企画から関わって、作り上げるのが面白い
- ・ 大学のホームページで面白そう
- ・ 会う人が魅力的
- ・ 視野が広がる
- ・ 知識が増える、学べる
- ・ 地域の人々の笑顔



体験が感動につながることで、継続する秘訣